

大動物事業部

＜12月の相場動向＞

12月は年間を通して最大の牛肉需要期を迎える。今年は東日本大震災や円高など経済的不安要因があったため消費自体が落ち込んだ。更に、福島原子力発電所の原発事故による放射性物質に汚染された稲わらの問題や焼肉チェーン店のユッケ食中毒による生食問題、さらに追い討ちをかけたのが12月に発生したレバーの食中毒事件など業界全体に大きな影響を与えた。特に、外食産業の不振から需要が落ち込み年末の需要期らしい相場展開にはならなかったようだ。交雑種と和牛は、景気低迷で枝肉価格が伸びない中、気温の低下とともに鍋物商材の動きがやや好転し人気銘柄牛や特定産地の需要が強まり、前月に続いて値上がりした。牛肉の高級部位を海外に仕向けて需要の拡大を図ろうとしたが、牛肉から国の暫定基準値を超える放射性セシウムが検出された事から、輸出停止となり前年を下回る相場展開になった。また、消費者の不安や不信感を払拭するために、全頭検査体制を確立したにも関わらず産地格差のある枝肉相場が続き、原発から距離を置くほど安全であると評価される不公平な価格形成となった。乳牛去勢は、外食が輸入物に転化し、給食関係が使用を取りやめるなど需給バランスが大幅に崩れているために、相場の回復が見込めない状況にある。

＜12月牛枝肉月間価格＞

和牛去勢

A5 1,927円（前年同月比86.2%）（前月比107.4%）

A4 1,561円（前年同月比83.7%）（前月比103.2%）

A3 1,278円（前年同月比79.6%）（前月比102.6%）

A2 1,021円（前年同月比73.4%）（前月比111.6%）

交雑去勢

B4 1,193円（前年同月比81.3%）（前月比115.5%）

B3 1,029円（前年同月比74.9%）（前月比114.3%）

B2 703円（前年同月比58.3%）（前月比107.7%）

乳牛去勢

B3 211円

B2 252円

12月の枝肉相場は、出荷減が続いている交雑種は前月よりも値上がりして、B3で129円高の1,029円となった。また、和牛去勢は年末需要とともに福島県産を除く3県の相場回復傾向から、前月よりも133円値上がりし、昨年8月以来の1,900円台の相場となったが、前年対比ではA5が307円安で、景気低迷による末端需要の低価格志向を反映して前年割れの状況が続いている。

＜2月の全国出荷頭数予測＞

農水省統計部の食肉統計によると、平成23年11月の成牛出荷頭数は11万6,335頭で前年同月対比1%減となり、出荷停止解除後の4県の出荷も回復してきたことで減少幅が1%までに縮小した。そのうち和牛は5万6,389頭で前年同月比5.2%増となり、乳牛去勢も2万1,476頭で前

年同月比1.8%増と前年を上回った。しかし、交雑種は2万605頭で前年同月比15.6%の減少と品薄感が顕著だった。2月の出荷頭数は畜産統計の出荷頭数や家畜改良センターの月齢飼養頭数から推測と、和牛の出荷頭数は1%～2%増が予測される。一方、交雑種と乳牛去勢は平成23年2月の飼養動向調査によると、交雑種は11.7%減の48万3,000頭で、昨年よりも減少して最低水準になった。このような状況からして、乳牛去勢と交雑種に関しては前年同月比95%前後になりそうだ。また、放射性物質の産地モニタリング検査のためのと畜や損害賠償請求などに係る問題を考えると、昨年よりも若干の減少となる可能性もある。

＜2月の牛肉輸入量予測＞

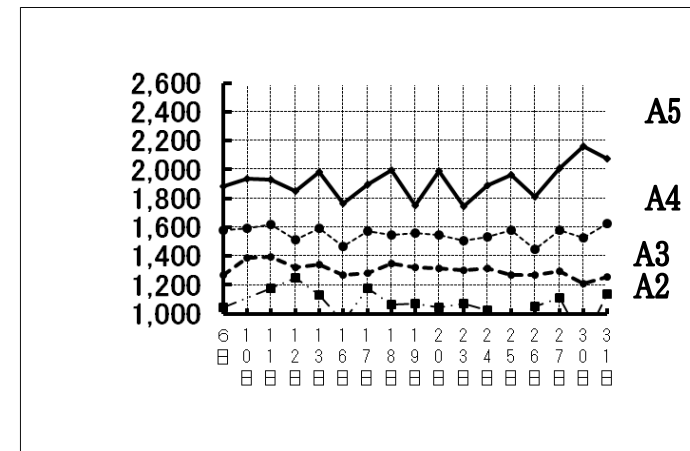
財務省が公表した平成23年11月分の輸入通関実績によると、牛肉はチルドが10.8%増の2万158トンで前年より一割の増加となった。一方、フローズンは2万7,585トンで前年同月比15.9%の減少ではあるが、合計では4万7,743トンで前年同月比6.4%の減少で前月より4,000トン増加している。また、米国内の供給量が落ち込み生体牛価格等が反発していることや、豪州産牛肉輸出先の新興市場の進出等の影響も考えると、今年2月の輸入量は、昨年の3万6,000トンに満たない3万4,000トン前後になりそうだ。

＜2月の牛枝肉価格予想＞

平成24年の初せりは、和牛去勢A5が1,884円と前年の初せりを15%も下回る厳しい幕開けとなった。2月は年間を通してみても消費が低迷する月で、年末年始の出費による家計の圧迫から、家庭内消費や外食を控え1月以上に購買意欲が低下する。更に、流通業界は3月末の年度末棚卸しを控えて、在庫調整に入る事も考えられるので、需要の停滞が予測される。従って、高級和牛の価格は伸び悩みそうだ。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	1,900～1,950	B4	1,150～1,200
A4	1,500～1,550	B3	1,000～1,050
A3	1,300～1,350	B2	850～900
A2	1,100～1,150		
乳牛去勢			
B3	500～550		
B2	400前後		

和牛去勢日別相場表（1月度）



小動物事業部

食肉流通統計によると12月の豚全国と畜頭数は予測に対し1万1,879頭少ない151万2,121頭（前年同月比99%）となった。

一方、12月分の豚肉通関実績は総量で6万7,553トン（前年同月比112.7%）、内チルドは2万116トン（同94.5%）、フローズン4万7,437トン（同122.7%）となり輸入予測を大幅に上回った。チルドの国別輸入量は米国が（同4.5%減）、カナダが（同8.3%減）で需要期に減少し、フローズンは現地価格の高値が幾分解消され安定した影響で米国は（同26.8%増）、カナダ（同28.9%増）となった。

＜1月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
5日	82,700	-	-	-
6日	80,400	455	431	1,080
7日	-	457	435	1,145
10日	79,800	-	-	-

年明けは業者の在庫補充、初荷納入等で買い気配が強く、特にバラ、モモ肉の鍋物需要は昨年末からの流れを維持して動きが良かった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	75,000	485	448	1,018
12日	75,400	467	439	743
13日	73,600	462	429	798
16日	69,000	454	393	541
17日	71,500	452	402	800
18日	65,100	438	381	696
19日	71,600	420	360	564
20日	70,600	406	361	958

全国と畜頭数は7万頭強の水準となった。枝肉取引の状況は日を追うごと軟調に転じ上物規格は400円の水準まで下げた。要因は好調だったバラ肉の引き合いが弱まった事や寒波の影響で野菜価格の高値が続いている事も消費を衰退させたと思われる。反面、輸入豚肉は低価格の魅力もあり消費量が伸びたことも国産価格が停滞した一因となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	67,900	404	359	548
24日	70,600	419	373	604
25日	63,900	408	362	598
26日	69,200	399	351	685
27日	66,700	372	341	857
30日	65,700	375	335	452
31日	66,500	393	359	737

全国と畜頭数は7万頭水準を割り込んできたが、枝肉卸売価格は下げ止まらずに安定基準価格を下回った。要因は部分肉の各部位に動きが見られず冷凍向けの在庫量の積み増しとなっている。また月末在庫を避けたい意向が強く下旬は厳しい相場で終始した。

こうした中で東京食肉市場の上場頭数は1万2,821頭で前年同月比98.4%となった。

＜2月豚枝肉相場見通し＞

2月の全国と畜頭数は農水省によると約133万1,000頭（前年同月比102%）の予測で、一日当たり約6万3,429頭（営業日数21日）となっている。一昨年の夏の猛暑の影響で生産頭数が低水準だったことを考慮すると少ない予測となっている。

また、当市場の1月末での2月の出荷頭数申し込み状況は約1万3,000頭となっており、一日当たり620頭となる見込みである。

農畜産業振興機構による1月分の豚肉輸入見込数量は総量で6万1,600トン（前年度月比98%）となっており、内訳は冷蔵品が2万300トン（同112%）、冷凍品は4万1,300トン（同93%）となっている。

国内生産頭数が微増予測にある中で、輸入チルド数量は前年比12%増予測からすると供給量は少なくない。

11月の豚肉推定在庫量は、国産は2万1,561トン（前月比104.2%）、輸入は14万7,002トン（同104.3%）となり、全在庫量は17万6,596トン（同104.3%）となった。6月をピークに全期末在庫量は月毎に減少推移を辿ったが、先月に続き増加した。

12月の食肉購買動向調査を見ると、食肉全体では前月比96.7%と減少した。内訳は牛肉が前月並み、豚肉は同91.3%、鶏肉は同102.7%と健闘した。1月に入ると牛肉・豚肉の消費は持ち直したが、この反動もあって中旬過ぎからは急速に消費が落ち込んだ。

このような需給状況の中、2月の一日平均豚肉出荷頭数予測は6万頭の半ばからすると生産量は多くない。生産段階の情報では昨年の震災の影響によって母豚の状態が悪く流産するケースが多く出荷頭数が少ないとのことである。また今年の気候は厳しい寒波によって全国的に低温状態である。その影響で豚の生育が遅れ始めている事も要因となる。また、需要面では生鮮野菜の高値が続き肉の消費にも影響が出そうだが、量販店、スーパー等の年度末決算セールも組まれている事を加味すると一段と高値の相場となる可能性もある。ただし、2月に決算が集中している事から下旬に向け仕入は厳しさを増す事も予測される。よって、2月間加重平均は「上物450円、中物420円絡み」と予測する。

豚日別相場表(1月度)

